

地区	地域福祉活動計画はどれくらい達成されていますか？	平成30～32年度で取り組んでいきたいことはなんですか？
入舟	<p>【「向こう三軒両隣」作り】</p> <p>○どちらかという後退している。(家族葬の増加・土地の境界争いの増加・少子化による近所づきあいの減少が原因)防犯・防災の観点からも問題である。若い世代は町内の行事に参加しない。</p> <p>【「お互いさまランチ」】</p> <p>○地域に根差しているが、ボランティア、参加者共に固定化している。新しい(若い)担い手の育成が必要。防災婦人部へのアプローチ等をしていく。</p> <p>【「赤ちゃん誕生おめでとう会」】</p> <p>○2年目を迎え参加者が増えている。</p> <p>【「ふれあいウォーキング」】</p> <p>○参加者が定着するも、固定化している。</p>	<p>○今までの活動の継続。</p> <p>○地域包括ケア推進事業モデルハウスの活用。</p> <p>○一斉美化運動の推進。</p> <p>○朝市の見直し(コミュニティ協議会が関わり活性化してはどうか)。</p> <p>○「お互いさまランチ」のボランティア(新しい担い手)育成のため、ボランティア参加者へ「しもまちお互いさまクーポン」の配布について告知したらどうか。</p>
栄	<p>【達成度】</p> <p>○三世代交流⇒もっと回数を増やしたい。</p> <p>○学校行事⇒登山ボランティアなど多く参加している。</p> <p>○ふれあいの場⇒支え合いのしくみづくりの拠点に。地域の茶の間開設できた。</p> <p>○買い物支援⇒オレンジマートの移動販売車が毎週木曜日に来てくれるようになった。</p> <p>○薬局に緊急医療情報キット⇒これからまだ工夫が必要。</p> <p>○しもまちお互いさまくらぶ⇒ボランティアが増えてきている。一方で、声をかけてもなかなか参加してもらえない。退職者のボランティア活動にお誘い。これを中心にネットワークづくりが進められている。</p> <p>【課題】</p> <p>○要援護者対応⇒協力者を増やす。</p> <p>○空き家・ごみ屋敷⇒今現在2件。片づけてももとに戻る。猫が増えている。3自治会で猫対策申請。</p>	<p>○緊急医療情報キット⇒情報の更新、再交付。</p> <p>○地域の茶の間⇒立ち上げたばかり。成功させたい。地域ボランティアの人材育成。</p> <p>○三世代交流⇒コミ協で計画</p>
湊	<p>【敬老祝会】</p> <p>○高齢者が増えて、市の基準に合わせている。町内によって違いあり。</p> <p>○参加しない方もいるが目的は親睦。</p> <p>【マジックショー・もちつき】</p> <p>○好評。子どもの参加も多い。</p> <p>【緊急医療情報キット】</p> <p>○開始より6年経過、見直し。</p> <p>○活動を理解していない人もいる。</p> <p>【地域の茶の間】</p> <p>○興味のあることをやっている(山歩き、歌声喫茶など)。</p> <p>○茶の間に限らず、出会う場があれば良い。習い事が好評。</p> <p>【課題】</p> <p>○アパート住民の参加が少ない</p> <p>○お茶の間の少ない・場所</p>	<p>【地域の茶の間】</p> <p>○まずは二葉コミュニティセンターにて、月2回・2時間程度を開催。</p> <p>○サークル活動(3B体操、ヨガ、習字)、デイサービスとも連携</p> <p>【避難所】</p> <p>○新たな場所(保育園駐車場等)</p> <p>【集会所】</p> <p>○学校跡地活用の実現</p>

豊照	<p>【多世代活動参加】 ○地域人材リスト⇒できていない。理解を得ることは難しく、無理かもしれない。 ○地域の茶の間⇒豊照に地域のお茶の間はない。集会所とよてるを会場に「みなとまち唄の会」が活動しているのみ。運営の担い手を養成することがどうしたらいいか。</p> <p>【緊急時避難支援】 ○ほとんどの自治会設置済み⇒備品の置き場に苦労している。⇒自宅保管やむを得ず。 ○支援者のリスト化はできていない(誰がAさんの避難を手伝うか)⇒防災リュック配布先は要援護者名簿に基づく。</p> <p>【安心・安全】 ○ごみ出し支援事業実施自治会が増えている。⇒週2回程度顔を見る機会。見守り体制強化につながっている。</p> <p>【その他】 ○民生委員と自治会のコミュニケーションを図りたいが、年1回(地区社協総会)のみ。</p>	<p>【1. 地域の茶の間をつくる】 ○人材育成・運営のノウハウを学ぶ。附船町に地域包括ケア推進モデルハウス設置、豊照からも参加できるようにPRする。 ○集会所とよてるの活用 ○はじめは月1回からでも。 ○地域教育コーディネーターとの連携も。</p> <p>【2. 自治会と民生委員と関係づくり】 ○地区社協総会以外に、コミ協総会時、民生委員に参加呼びかけ。婦人部や日赤奉仕団とのつながりに。 ○普段からの関係づくりを意識する。</p>
新潟	<p>【子ども食堂】 ○新潟県の補助金を利用して、自治会の分科会で立ち上げを予定(新潟地区コミュニティ協議会の地域)。 ○食材の提供(寄付)者の予定あり。料理を作るボランティアを希望する方あり。 ○平成29年秋(10月)から開始したい。現在実施するための仕組み作りをしている最中。 (場所:大畑青少年センター 平成29年10月～平成30年3月)</p> <p>【旭水の茶の間】 ○1回当たり30～40人の参加あり。新しい方の参加者がいない。 ○参加者の方に参加していない方の情報を聞いている。 ○平成28年度、29年度と中央区社会福祉協議会の助成金を受けて、見守りのための勉強会を実施している。</p>	<p>【子ども食堂】 ○子ども食堂活動を発展させて高齢者にも利用してもらい、多世代交流が生まれる場所にしたい。</p> <p>【旭水の茶の間】 ○平成28年度、29年度の見守りのための勉強会の実施を受けて、地域に合った見守り活動を始めていきたい。 ○茶の間参加者の中から見守り活動をする人が出てくると良い。 ○もっと若い世代(50～60歳代)を活動に引き込みたい。</p>
礎	<p>【地域の交流】 ○クロスパルの利用団体が多く、活動は継続しているが、礎地区以外の住民も増えている。 ○地域の行事の参加について、ロコミで声かけをして、参加していただいた方がいた。ロコミで情報を広げてもらおう人を増やす。</p> <p>【住民同士の声かけ】 ○道で会った時の声かけや隣近所での声かけはある。 ○緊急医療情報キットでの見守りについては、キットを配付したままになっている。 ○地域の婦人部の集まりは継続している。</p> <p>【住民の健康】 ○「人が集まったら体操」はまだ合言葉になっていない。 ○夏休みのラジオ体操は実施している。(以前は毎日ラジオ体操をしている団体があった)</p>	<p>【地域の交流】 ○ロコミパワーの強化。 ○クロスパルを利用する活動はこのまま継続していく。 ○信濃川沿いのカフェなど人が集まるところに地元の方も積極的に出かけ、若者との交流を図る。</p> <p>【住民同士の声かけ】 ○婦人部を更に活性化し、女性が元気な地域にしていく。 ○緊急医療情報キットの情報更新を、民生委員や自治会長の協力を得ながら地域で実施していく。</p> <p>【住民の健康】 ○コミュニティ協議会主催のウォーキングの会を保健センターと検討する。</p>

【自治会同士の交流と、連携の強化】

○少子高齢化が進んでいる中で、交流の活発化はそれぞれの自治会が行う。自治会の独自事業は歴史背景があるので尊重していく。

【高齢者の居場所が無い】

○空き家対策で居場所づくりを考えたいが、現時点ではなかなか前に進まない。

【照明など防犯について】

○LEDの街灯設置、防犯カメラ設置等各自治会で環境に合わせて自主的に設置した。

【移動手段のバスが減った】

○運行ルート変更により乗降場所が便利になった地域、不便になった地域がある。

○既存の敬老会や新年会、まつり、地域福祉事業等各団体の役員と地区社協の役員が兼任しているケースがあるので、連携し情報を共有しながら活動を行う。

○後も現在実施している事業やイベントを継続して実施し、見守り・支え合い等地域に根差した活動をしていく。

○若い世代にも地域に関心を持ってもらうよう、さまざまな機会を通じて話していく。

○各種団体のより一層の連携で地域活動を促進し、併せて次世代を担う人材も育てる。⇒支え合いの実施(盆踊り、敬老会等)。

○友愛訪問事業の掘り起し・高齢者あんしん連絡システムの設置促進。⇒一人暮らし世帯の増加に対応。見守りを重点的に行う。

○緊急医療情報キットを利用した継続して見守りの実施。

○一人ひとりがお互いに支え合い、助け合い、安心して暮らせる地域にするため、現実の課題を情報収集し、課題解決のために自治町内会や行政が協議していく体制の構築が必要であると感じる。

地区	地域福祉活動計画はどれくらい達成されていますか？	平成30～32年度で取り組んでいきたいことはなんですか？
鏡淵	<p>【協力し支え合える地域】 ○民生委員や福祉協力員の見守りはしっかり行われている。 ○同じコミ協内でも各自治会の活動にもすごくバラツキがある。→他の地域にもノウハウを教えて広げてほしい。情報をコミ協全体に教えてほしい。一覧表にする(活動内容)</p> <p>【みんなが知り合えるまち】 ○子どもを引っ張り出すイベントをやって若い世代を引っ張り込みたい。 ○若い世代も参加してくれるきっかけ(お祭り)がある地域とない地域がある。 ○若い世代にも地域に目を向けてもらい、お互い様の意識を持たせるにはどうしたらよいか。 ○若い人も役員になってもらうにはどうするか。→まずは知り合う。あいさつが1番大切。ノミネーション。</p> <p>【多世代が交流・相談できる場】 ○地域の茶の間は他の地域より多い。サロンは充実してきた。 ○サロン7つ…月1回ペース。コミ協全体でどこへ行っても良いが、全体の計画が案内されていない。 →コミ協だよりにのせる。サロンだよりを作って回覧する。 毎週開催をめざすには運営が難しい。 ○出てきてほしい人に来てもらえないのが1番の問題。→出ていきたくない。気力がだんだんなくなる。疲れる。おっくう。 ○コミ協全体の活動もやっている…映写会、三世代運動会、お茶会 ○白山浦2丁目シルバークラブ主催。タクシー送迎つけている。お弁当・おみやげ付→参加者多い。</p>	<p>【協力し支え合える地域】【みんなが知り合えるまち】 ○各町内の活動を共有する。→各町内会の年間行事を出してもらいまとめる。(コミ協総務部にやってほしい)※森会長に事前に話しておく。 ○全体に話し合う場をつくる。→民生委員と町内会長の会合(9月)の活用。各町内の活動をきく。出席してもらえるよう声かけをしてお願いに行く。</p> <p>【多世代が交流・相談できる場】 ○コミ協全体に活動を広げたい。→地区社協だよりを作成したらどうか。(鏡淵校区・班回覧)。サロンの一覧(3月に発行)実践報告。</p>
白山	<p>【声かけあいさつ】 ○5月に民生委員であいさつ運動をするようになったら、子ども達が自分からあいさつをするようになった。 ○学校の入学式や卒業式に出ることも(親にも)顔を覚えてもらうのに大切。 学校も地域との連携を大切にしている。コミ協の役員にも声をかけてくれるようになった。</p> <p>【行事に集い世代交流】 ○地域に子どもが少ない。マンション世帯が自治会に入らない。マンションの子どもは新潟小学校、附属小学校に行く子が多い。マンションに声をかけるようにしているが…。 ○八千代保育園の跡地に“葵の園”(私立の保育園?幼稚園?)ができるので、また子どもが出入りするようになる?</p> <p>【助け合い安心のまち】 ○向こう三軒両隣の助け合い…できているところとできてないところがある。できているところ→本町とか。昔から住んでいる人の顔ぶれが変わらない。 ○一人住まいノマンションは付き合いができないが、家族で住んでいるようなマンションとは付き合いようになっている。 ○マンションを建てる時に災害時等の協力をお願いしておく。(条件付け)</p>	<p>【声かけあいさつ】 ○あいさつ運動は続けていきたい。安心安全。子ども達が元気でにぎやかなまちが一番!</p> <p>【行事に集い世代交流】 ○子ども会を各町内ではなくブロック化すれば活動しやすくなるのでは。 ○お祭りによる交流の継続。</p> <p>【孤独死のないまち】 ○常設のお茶の間があれば…人材の確保が難しい。継続が難しい。 ○少し出かけるとまち場があるのでそういうところに集まっている。イトーヨーカドーとか。地の利がある。</p>

<p>浜浦</p>	<p>【憧れられる、住んで良かったまち】 ○町内でまとめるのは難しい。広い自治会はまとめるのが大変。役員がガラッと替わったためベテランでアドバイスしてくれる人がいない。 ○自治会長の意識次第というところがある。 ○隣接する小さな自治・町内会に声をかけ共済で活動する。→小学校のラジオ体操などやっている地域もある。</p> <p>【世代間交流を活発に】 ○2年に1回の地域住民の集いをもう少し小規模にして高齢者参加型「ちいきのつどい」に発展している。1月23日(木)「ちいきのつどい」『歌って笑って楽しんで(仮)』予定。「つどい」が変化、発展している。 ○地域の茶の間「ひなたぼっこの会」は継続。 ○3校(小中学校、日本歯科大学)合同演奏会、フロアカーリング、麻雀大会は継続してできている。 ○夏に納涼会をやるが集まらない人もいる。</p> <p>【転入者にも優しいまち】 ○「見守り隊」は継続。あいさつの行き来はある。(浜浦小の子ども達はあいさつをしっかりとっている) ○転入者が増えてきたが、自治会活動への参加なかなか難しい。</p>	<p>【憧れられる、住んで良かったまち】 ○自治会がいかに問題意識を持てるかが課題。 ○社協が自治会に呼びかけるのは難しい。→支えあいのしくみづくり推進員にコミ協・自治会をまとめてほしい。期待している！</p> <p>【世代間交流を活発に】 ○地域のつどいをやっていきたい。</p> <p>【転入者にも優しいまち】 ○災害時にボランティア支援が必要な時に備えて組織図をつくる(班ごとに)。現在の作成しているところはある。 ○要援護者名簿をつかうのは難しい。</p>
<p>関屋</p>	<p>【みんなが交流し協力】 ○高齢者名簿・児童名簿をもらった時に、民生委員と自治会長が話し合える機会をもっと増やしたい。 ○みんなが交流し協力しあえるまち。←もっと向上できるはず。</p> <p>【子ども達がいいき育つまち】 ○イベント…世代交代や住みやすさ向上。三世代交流:なかよし運動会・敬老祝会・ふれあいランド。新しい住民とのふれあい:赤ちゃんこんにちは</p> <p>【住民が健康に暮らせるまち】 ○場…学校や地域と協力して向上している。もっと上昇できるはず、住みやすさに上限はない。公園・神社・地域の集会所・街灯 ○公園の整備もボランティア、シルバー人材に加えて小学校の生徒も協力してくれている。 ○そうじをできない高齢者(認知症)をそうじ当番に加えるべきか? そういった方々も行えるようにしたい。自治会、隣人、民生委員。</p> <p>【安心・安全なまち】 ○防災…もっと他会と連携したい。学校町・田町1丁目2丁目・ハイツに防災活動を行っている。全体化、地域を超えて行っていきたい。 ○治安 防犯を定期的に行っている。民生委員とも協力していきたい。</p>	<p>【みんなが交流し協力】 ○高齢者名簿・児童名簿をもらった時、自治会長と民生委員が話し合いながら情報交換を深めていきたい。 →守秘義務の問題があり難しい。 ○自治会と民生委員が地域という一つの枠組みで団結しもっと情報交換を密に行うことによって、安心安全やコミュニケーションの向上が行えると思うので取り組んでいきたい。</p> <p>【子ども達がいいき育つまち】 ○自治会長と民生委員、地域の方々が年齢にとらわれず行えるイベントを開き話し合い交流の場としたい。</p> <p>【住民が健康に暮らせるまち】 ○神社、公園などの手すり、設備等、皆の集会場となるなら整備していく必要がある。 ○認知症カフェなど今までにない事業を行っていきたい。</p> <p>【安心・安全なまち】 ○学校町・田町1, 2丁目・ハイツと防災訓練を行っているが、自治会範囲を超えた全体的な訓練も行っていきたい。</p>
<p>有明台</p>	<p>【気軽に声をかけあうまち】 ○隣近所で声をかけあうよう意識している。 ○町内が団結しており、高齢者の様子を気にかけている。</p> <p>【居場所のあるまち】 ○地域の茶の間が充実・拡充している。 ○あと1~2ヶ所地域の茶の間が開設できれば地域の拠点がほぼ整備される。</p> <p>【高齢者と若者が交流できるまち】 ○ふれあいスクールを夏休みに開催し、民生委員も運営に携わる。</p>	<p>【気軽に声をかけあうまち】 ○地域でちょっとした支援のしくみを考える。</p> <p>【居場所のあるまち】 ○地域の茶の間を増やす。</p> <p>【高齢者と若者が交流できるまち】 ○小学校PTAを地域の活動に関わってもらい、PTAを離れても引き続き地域活動をお願いすることで担い手をつくっていく。</p>

平成29年度 地域福祉座談会(地域福祉活動計画について) 意見集約表

平成29年7月24日 中央区地域健康福祉計画・地域福祉活動計画 地域福祉座談会

地区	地域福祉活動計画はどれくらい達成されていますか？	平成30～32年度で取り組んでいきたいことはなんですか？
南万代	<p>【自治・町内会組織の機能強化】 ○マンションは単独の自治会が多く、外との交流が少なく、なかなか同じ目標に向かってが難しい。コミ協の加入が難しい。</p> <p>【支え合い・交流】 ○お茶の間代表も高齢になり、後継者がおらず、続かないところもある。</p> <p>【健康維持・介護予防】 ○健幸クラブ・緊急医療情報キットは継続できている。地域包括ケアシステムのモデル地域を参考にすることについては、ボランティアがいない。キーマンになる人がいないと難しい。</p>	<p>【その他】 ○新たに取り組んでいきたいことよりも地域福祉活動計画に記載されている取り組んでいきたいことを、平成32年度までに少しずつ取り組んでいく。</p>
万代	<p>【リーダー育成と拠点の整備】 ○宮浦乳児院の跡地を集会所にしてもらいたい。(近々説明会がある) ○地域のリーダーを育てるのは難しい。</p> <p>【企画と広報】 ○万代の風(旧:どげんだね)を年4回発行している。インターネットでも見ることができるが、見ていない人が多い。 ○高齢者が参加しやすい行事として、茶の間(週1回開催)、敬老会を実施。</p> <p>【意見の集約と発信】 ○子どもから高齢者までの場所づくりとして、スポーツ振興会(小学校区)、万代橋を愛する会、鮭の稚魚放流(南万代と一緒に)があるが、参加者が決まっておらず、広報活動が不足。</p>	<p>【リーダー育成と拠点の整備】 ○消防団や祭り参加者の若い人に声をかける。</p> <p>【企画と広報】 ○万代の風の周知。</p>
長嶺	<p>【交流の深化】 ○茶の間は充実しており、ない地区にも新たに立ち上がる予定もあり、広がっている。場所もあり、時間をかけて浸透。茶の間で情報が高齢者にも行き渡るように。</p> <p>【見守りの体制づくり】 ○町内パトロールは2/3くらいの町内で班ごとに取り組む、30～40分みんなで歩いて気にかけている。</p> <p>【担い手の育成 意見の集約と発信】 ○担い手を新たに増やすのは難しい。しかし、専門部の活動を通して、常に引き継ぐことを考えて動いている。まつりの担当を割りふったりしていく。</p>	<p>【交流の深化】 ○新たに立ち上がる茶の間</p> <p>【見守りの体制づくり】 ○生活支援(車は使わずに)、ごみ(動く機会を奪わず)、電球交換、連絡の仕方(連絡網)、除雪(すでにできている)。</p> <p>【担い手の育成 意見の集約と発信】 ○担い手の少ない地区の人にも声をかけていく。</p>
沼垂・本馬越	<p>○約8割達成。ほとんどの目標実施済み。</p> <p>【その他(未達成の目標)】 ○歩道の段差の解消(沼垂)…地域のみでの取り組みは困難。行政の実施。 ○地区の人材発掘(本馬越)、民生委員の戸別訪問</p>	<p>【学校との協働】 ○引き続き、地域・学校との連携を継続。</p> <p>【その他】 ○行政等へ要望するものは、引き続き要望内容を検討していく。(歩道・避難所など)</p>

平成29年度 地域福祉座談会(地域福祉活動計画について) 意見集約表

平成29年7月24日 中央区地域健康福祉計画・地域福祉活動計画 地域福祉座談会

地区	地域福祉活動計画はどれくらい達成されていますか？	平成30～32年度で取り組んでいきたいことはなんですか？
鳥屋野	<p>【あいさつと交流】※達成度は高く概ね達成できた。とするも、子ども達への厳しい目線がある事も確か。 ○新しくできた自治会の中でも、近所同士で仲良くなりつつあるほか、自治会での既存活動やイベントがうまく活用できている状況。 ○子ども達や若い人は自らあいさつしてくれる人が多く、年配の人がそれにつられていく状況。 ○家を建てて転入してくる子どもと親の世帯が多く、若い人も地域に参加したいという人が増えた。 ○一方で、子どもに関する苦情が小学校に集中する。自分たちで子どもを叱れない地域になってきている。</p> <p>【公園の活用】※達成度が低い。 ○子供が安全に遊べる配慮は不足している。小学生が走れるような、大声で騒げるようなところが少ない。</p> <p>【世代間交流】※達成度高く、概ね達成できている ○40～50代の参加については、かなり達成できている。誰もが気軽に参加できる行事が鳥屋野に増えている。餅つき大会、おばけイベント…。</p> <p>【災害時の助け合い】※達成度高いが、次のステップを検討する必要あり ○防災訓練は、参加はするがリアリティがなく、毎年同じ状況が続いている。積極参加という意味では達成できているが、現実的に避難することを考えると、避難後のことを想定した訓練をするなどが必要。 ○自治会長や民生委員に任せきりな意識が強く、隣近所で助け合う意識が薄い。 ○旧鳥屋野小を避難所にするには難しくなったので、次の見直しではこの計画部分の変更が必要。</p>	<p>○実施した事業のフォローアップと見直し。 例) 緊急医療情報キットの活用状況の確認など ○災害時の要援護者、住民をどう避難するか、コミ協単位でなく自治会で。 例) 住宅地図を広げて話し合うとか…そこから地域の仕組みができれば民生委員や自治会長任せな地域づくりでなく隣近所の助け合いも意識づけられる ○男性に役割を持ってもらえる工夫を、様々なイベントで取り入れる。</p>
上山	<p>【向う三軒両隣】 ○回覧板は、独居世帯だと回らない。世帯数が増えてきていて、世代間の価値観の相違もあり行事が難しくなってきた。 ○地域の茶の間、既存のところは継続できていて良いが、新規が増えていない。参加者や担い手も高齢化していることに加え、場所が無い。 ○ゴミ出し支援、隣近所で協力できている。</p> <p>【あいさつし合える関係づくり】 ○防犯・防災に自治会ごとに取り組んでおり、自主的にパトロールしている自治会もある。 ○学校との関係性が良く、防災訓練を中学校と連携して取り組んでいることから、顔の見える関係ができつつある。 全体として、取り組むべきことはできていて、達成度は低くない。</p>	<p>○孤独死・孤立死の防止のため、自治会長から「独居の人で何か異常や異変があったら会長・警察へ」といった回覧を回すなどの活動を行う ○マンション・団地の交流←自治会に入れば回覧が回り、回覧があればそれでよいという感じもあり、難しい部分は残っている。自治会に入らないのは仕方ないとして、他の方法での交流を模索。 ○緊急医療情報キット(防災カード)の配付対象を拡大→自己管理にして、全世帯配付する。 ○見学研修の継続…医療福祉大のツアーを今年度は計画中、健康寿命の延伸に向け、地区内の住民が学ぶ機会をつくる。</p>
女池	<p>【安心・安全住みやすく】 ○災害訓練を女池小、鳥屋野中、紫竹山小、江南高校で子ども達のいる日に実施し、子どもから高齢者まで防災の意識を高めている。 ○要援護者の確認を行い、各自治会で班ごとに見守り実施。見守りの目標は達成しつつある。 ○助けてほしい人と助けたい人をつなぐ仕組みは、まだできていない。</p> <p>【みんなで声をかけあうまち】 ○地域の茶の間は月1開催の茶の間が1ヶ所増設。 ○コミ協で地域の茶の間助成金を予算化、今後地区内に増やしていく。 ○地域の茶の間は地区内26自治会で10カ所開設しなくてはならないと考えている。</p> <p>【三世代が地域に根ざす】 ○世代間交流として町内旅行を町内会単位で実施しているところがある。 ○敬老祝金はコミ協としては廃止したが、自治会単位でのお祝いイベントを行う自治会が全部ではないが多くあり、交流している。</p>	<p>○地域の茶の間の開催場所と開催回数を増やす。充実させる。 ○町内イベントの回数を増やし、参加者の幅を広げる。参加のきっかけをつくる。 ○ボランティア参加者の発掘。 ○町内の見回り等の団結の機会を増やす。 ○健診率を上げたい←健康寿命を延ばす⇒回覧板などで健診の利用者を増やす</p>

<p>上所</p>	<p>【健康寿命を長く】 ○貯筋運動(卓球、他スポーツ)を週60人×月4回。 ○防犯パトロール、防火パトロール(週1回～月1回)。 ○目標はほぼ達成している。</p> <p>【ご近所さんが顔見知り】 ○あいさつ運動(少年野球)。子どもはあいさつをよくする。 ○バーベキュー等のイベント。 ○自治会で茶の間。 ○子どもを通じて親も参加。 ○体感で6割以上達成。</p> <p>【語り合いと助け合い】 ○自治会で集まる場所があるところは活発的。 ○半数以上は達成。</p>	<p>○小さな自治会にそれぞれ自治会館(話し合いの場)を整備する。 ○世代交代、次世代リーダーの育成が必要。</p> <p>【健康寿命を長くするための活動】、【ご近所さんの顔が見えるまちをつくるための活動】、【隣近所の住民が語り合い、助け合うまちを作るための活動】についてはこれまでの活動を継続。</p>
<p>紫竹山</p>	<p>【多世代交流】 ○防災訓練を毎年コミ協、紫竹山小でやっている。 ○駅南コミセンではカラオケやダンスが盛ん、文化祭もやってる。</p> <p>【ふれあいづくり】 ○ふれあい活動は回覧板で回している。神社の祭り等。 ○5年生の茶の間を年1回、計3回ほど開催しており、認サポの講習も受けたらしい。</p> <p>【その他】 ○緊急医療情報キットはけっこうやっている人がいる。 ○住民力の限界を感じる。民生委員におんぶにだっこ、丸投げ。独居の親に関心がない。「何でもしてもらって当然」という態度の人。 ○次世代につなぐのが難しい。同居が少ない。昼間働いていない。意外とよそから転入してきた人が参加してくれる。 ○ごみの分別が難しい人にどう対応すればよいか。 ○紫竹山は細長い地区なので、事業をしようにも移動が大変。</p>	<p>【魅力あるプログラム】 ○終活、断舍離。</p> <p>【防災】 ○避難所まで遠い人やとりあえず逃げ込むところを記した一次避難マップの作成。</p> <p>【住民力向上】 ○地域包括ケアや福祉サービスや民生委員のことなど、学ぶ場づくりが必要。</p> <p>【校区まつりの実現】</p>
<p>笹口</p>	<p>【次世代とつながろう】 ○駅南清掃、バザー等の小学校行事、長期休暇中にほっとハウスに週1回専門学校生が参加している。 ○若い人が参加できるようなイベント開催、コミ協と専門学校との対話、コミ協に青少年部設置は難しい。 ○若くて動ける人がいない。担い手が少ない、特に自治会役員、民生委員、消防団。 ○子どもが生まれたらお祝いを渡している自治会もある。また、子どもが少なくて行事を開催できない自治会もある。</p> <p>【身近な地域の交流場所】 ○新潟市主催でほっとハウスを会場にして月1回三歳児未満の子育て支援事業を開催している。 ○コミ協でマンションの一室を借りて会議ができる場所ができた。</p> <p>【安心・安全なまちづくり】 ○セーフティスタッフは増えている。 ○住民が進んで公園清掃ボランティアをしている人がいる。 ○自治会全世帯にゴミ袋を配布している。</p> <p>【マンション住民と戸建住民の交流】 ○マンションの防災訓練の参加が少ない。</p> <p>【その他】 ○自治会の財政状況については潤沢なところとそうでないところの差がある。</p>	<p>【次世代とつながろう】 ○中学生に積極的に参加してもらおう。光のページェントに専門学校生の参加を。</p> <p>【安心・安全なまちづくり】 ○通報スイッチのある場所のマップを作ってはどうか。防災マニュアルをつくってはどうか。 ○緊急医療情報キットもよいが、防災用リュックの配布に力を入れていきたい。</p>

【多世代交流】

○地域の茶の間を開催している自治会が増えた(10/19自治会、地区として1)。清五郎の老人クラブも増えた。
○ふれあい事業の継続。お楽しみ会年1回。ふれあい会年2回。福祉大会。ほぼ全地区でまつり実施。さいの神等。

【地域の人同士、顔の見えるまち】

○学校と地域の連携として町内の清掃活動、お互いさまネットワークに支援者として子どもが参加。
○2つの自治会で運動会を実施。
○自治会と民生委員の連携について、各自治会ごとに実施している。コミ協、自治会長、民生委員で情報交換会を行っている。

【身近にある活動拠点で交流を】

○コミ協主催で、学校と地域が連携し朝市を開催し、農家・家庭菜園を持っている人など地域住民同士の交流を行っている。(H29は8/6開催)

【多世代交流】

○地域の茶の間の継続。

【身近にある活動拠点で交流を】

○各町内に歩いて行けて、高齢者、障がいのある人、子どもまで全世代が使いやすく、またエレベーターも備えられた「まちづくりセンター」等の拠点があるとよい。